

第9号

発行日
2020. 11. 9

Super Highway

JR東労組バス関東本部



JR東労組ホームページ

バス関申
第2号

2020年度年末手当等に関する申し入れ

組合員の現実を訴えました！

～②～

組合員の生活の現実について

組合

- ・雇用の維持は前提だが、自分たちの生活が成り立たなければ、その会社に居続けることが出来ない。赤字決算は重々承知だが、組合員・家族のために要求を受け止めてもらいたい。
- ・毎月7万～10万円が不足している組合員も少なくない。どこからお金を持ってくるか悩んでいる。仕事に集中出来ないくらい状態である。ボーナスで補填したいと考えている人は多い。

会社

- ・収入が大きく減っているのは夏季手当時も議論し重々認識はしている。経営が厳しいことも理解していただきたい。
- ・みなさんの頑張りは、増収に結び付かない切ないところもあるが、決められた運行の中で真摯に臨んでいただいている。

黒字経営に向けた努力について

組合

- ・JR 東労組はコロナが収束してからではなく、コロナの中でどうやったら黒字を出せるか努力している。会社とも必要な議論は行っていききたい。

会社

- ・ベクトルは同じである。バスは密というイメージがあるが、東京駅でイベントを行い、バスの換気は5分で全て出来ると紹介したり、お客さまが一人でも戻ってきてもらうように取り組んでいる。

人材確保について

組合

- ・若い社員が退職をして別のバス会社に転職した。この状況が続くとコロナが収束した後に影響がある。名実共に日本一のバス会社を目指したい。若い人材が流出しないように会社の姿勢を見せて欲しい。

会社

- ・若い方が辞めるのは非常に切ない。そうならないように、金銭面で対応できるかは別として、会社の魅力付けを付加しながら、貴重な人材を流出させないようにしたい。

◆組合の主張

- ・JR 東労組としても、経営状況・現実をしっかり受け止めた上で危機感を共有しながら取り組んでいる。
- ・一番は組合員の生活実感をお大切にすることを根拠に雇用と生活を守る要求とした。
- ・どれだけ努力してもなかなか反映されていかないコロナという現実の中で、赤字とは言え、収益の確保をしてきたのは、日々の組合員の弛まぬ努力だと認識している。今日の交渉で認識一致出来た。
- ・回復傾向にある中で、収益を確保する基盤も日々の努力で作り上げていることも、認識一致出来ると考えている。
- ・将来の成長投資という1つの側面も検討材料に入れていただきたい。

バス関東本部は精力的に団体交渉を行っていきます！ 職場から組合員の声を結集させていこう！